



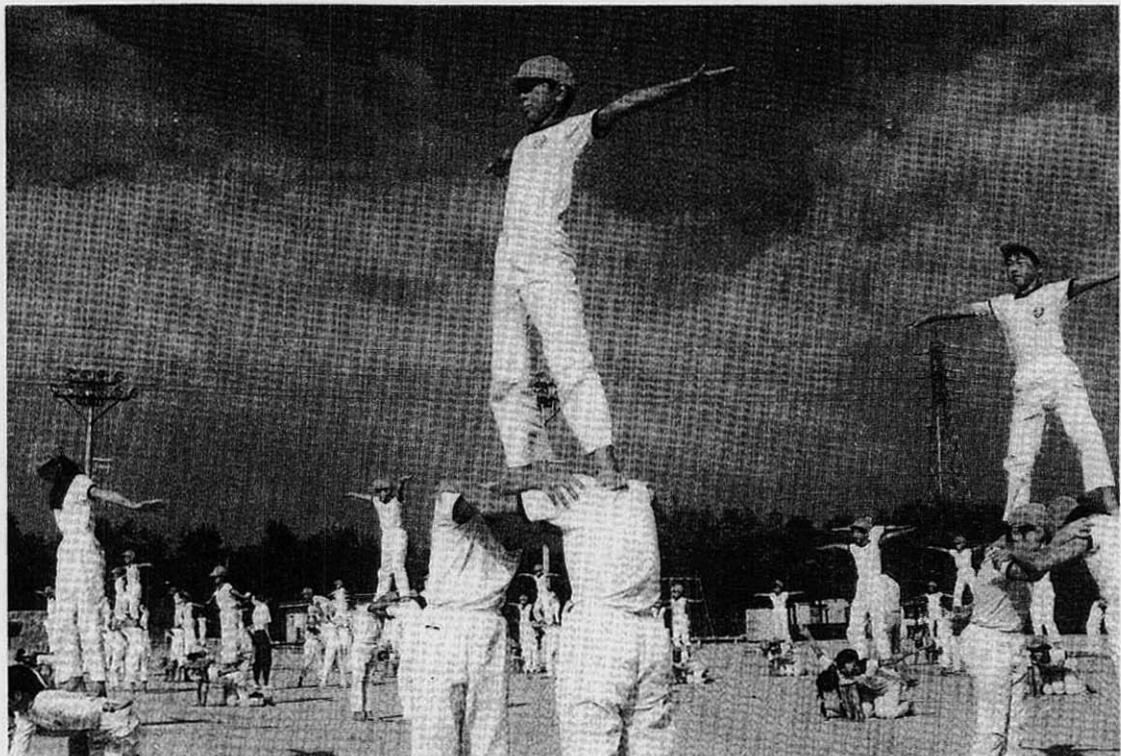
11月号

平成2年11月1日

発行 / 編集
岡崎市教育委員会

ことばにいのちをふきかけ
ばめんをうかべ
おもいをこめて
えんぴつを走らせている
子どもの姿はいい
時には
ほほえみわらいをし
時には
考えこんだりして
ことばをさがし
ことばと話している
ことばにいのちをふきかけ
ばめんにびつたりの
自分のことばを
自分の心を
おしげもなく
伝えてくれる
このよき 子どもの作文

(作文)



(力の結集 - 緑丘小)

一 想 隨 教 育

生涯學習情報システム



三 浦 聰

十一月三日に西三河ニューテレビ放送「ミクス」が開局する。地域情報化推進の一環として、本格的な都市型CATVの誕生である。有線テレビでは、その同軸ケーブルの樹枝状分配網を利用して、多くのテレビ番組を伝送することができる。ミクスでは、六十チャンネルまで可能であり、このうち十九チャンネルの放送で開局する。既存放送の九チャンネルと、自主放送の十チャンネルである。この中に地元情報チャンネルというのがある。従来の情報メディアでは満たされない自主制作番組で、市民の望む適切な情報を、適時・適所に提供していく。いわゆる三密情報システムである。地域住民の生活に密着したローカル情報、教育・教養・趣味・娯楽など、市民参加による魅力ある映像づくりに、局側では意欲が出、燃やしている。また市側でも、広報番組

「パブリック・チャンネル」を毎日二十分程度放送する。まちの話題や行政だより、それに講座や催し等のお知らせを、映像で茶の間に届け、市民の理解を得たいという。さらに将来は、双方性通信機能をもつCATVと、パソコンやファクシミリ等の情報機器を、通信回線を介してホストコンピュータと結び、ネットワークを実現して、地域の情報化を達成しなければならない。その一つであるコミュニティ型の生涯學習情報システムについて、岡崎市地域情報化推進協議会の基本計画に沿って説明し、筆者の見解を述べることにする。

まず第一に、市民映像情報システムが挙げられる。これは既に述べた通りであるが、さらに外国語放送や市民文化講座などに加えて、市民の制作した映像も放映してはどうか。

第二に、図書館情報システムである。パソコン・ファクシミリ・キャブテン（文字图形情報ネットワーク）を導入して、蔵書をデータベース化し、図書館・美術館・市役所・市民センター等から、図書検索や貸出予約等のサービスを行う。そして、郷土資料・講演・講座記録、さらには市民の著作もデータベースに入れて、地域の特色を出すべきであろう。

第三に、生涯學習データベースシステムである。教育の機会均等の理念に基づき、だれでもいつでも学びたいときに学べるよう、関連する情報をデータベース化し、教育情報サービスを行う。また、大学や研究機構も市民に門戸を開き、公開講座や講習会はもとより、地域の生涯

學習計画に協力し、多様化する市民のニーズに応えなければならない。

第四にそして最後に、教育機関ネットワークシステムである。現在、市内すべての小・中学校にファクシミリが設置され、またパソコンは、小学校に四一台、中学校に一四八台導入されている。いずれCATVも設置し、生徒議会の中継や、各校クラブ活動の紹介等、生徒と先生で制作した番組も、放送できることが望ましい。いずれにしても、ハードウエア的には予算があれば充実するが、問題はそれを利用する技術、つまりソフトウェアにかかるところである。

（東海産業短期大学副学長・岡崎市地域情報化推進協議会会長・理学博士）



国語科指導員

野々山宏司

発問を考える

五年生の国語の授業「春先のひょう」(物語文)を参観した時のことである。

学習課題「お母さんの心のわだかまりを考えよう」を解決するための柱になつた発問は

・ひょうが降ってきた時の母の気持ち

・山崎さんに怒鳴られた時の気持ち

・・・

・田村さんの喜ぶ姿を見た時の気持ち

である。

子供たちの発言に対し、「本文のどこからわかるか」というゆきぶりをかけながらの展開の中で、一問一答形式の話し合いではなく、根拠を述べながらの質の高い討論が展開された。最後には「うれしいのか悲しいのか分からぬ涙」といふ文中の表現にたどりつき、学習課題である「お母さんの心のわだかまり」を十分に考えられた授業であった。

一般的には、学年が進むにつれて、周囲の目を気にして挙手も減りがちであるが、本学級の子供は積極的であった。し

ふるさとシリーズ

この人に聞く



しいたけ栽培

宇野 弘治 氏

篠づく雨の降りしきる中、しいたけの菌床栽培家としては第一人者の宇野弘治氏を、安戸町の御自宅へお訪ねした。現在では、しいたけやえのきだけなどはほとんど一年中店頭に並んでいるが、きのこは、元来秋の味覚である。そのいたけを一年中市場へ出荷する周年栽培を、宇野氏は、全国で二番目くらいに始めたという。

「三十年くらい前に、しいたけをやりかけたんです。八百屋さんもきのこを知らないで、市場へ出してあまり高く売れない時代からです。ところが、本を切る人が減って、五年くらい前から

原木不足で、とてもやつていけなくなってしまった。そこで、三年ほど前から菌床栽培をやり始めたんです。」

菌床栽培というのは、広葉樹のおがくずを袋詰めにして固め、殺菌したものに、きのこの菌を植え付けて育てる栽培方法だとのこと。

「しめじやなめこはわりに出やすいのですが、しいたけは、木の皮を破つて皮から出るものだから、菌床栽培がなかなか難しいんです。基礎研究を広めるために栽培を頼まれたので、それに自分の技術を加えてやつてみたら、ある程度完成していいものが出来るようになりました。」

全国各地の生産者や学校関係者も視察に来るそ�である。

今では、原木栽培よりも菌床栽培の方がよい品質のものができるとのこと。しかも、菌床栽培のものの方が味が薄くまろやかで、現代人の好みに合うのだそうだ。しいたけの菌床栽培は、この二年間に急成長を遂げ、今年は県全体で約六十万玉が植え付けられ、来年は百万玉にもなるのではないかと言われる。

「今は三重県が大産地なのですが、三百万玉になると愛知も一つの産地になるので、そうなつたら引退しようかと思つてゐるんですよ。」

と、笑つて話された。

三十年の長きにわたりしいたけ栽培に携わつてこられたのは、元々生物や化学が好きで、きのこや培養について勉強す

るのがおもしろかったからだとのこと。

また、若い頃、農業近代化資金愛知県第一号を受けられ、成績がよい栽培者として注目された時期に大失敗をされた経験も、今の成功へのばねになつたとも。

「しいたけは、自然食品・健康食品です。だから、安全な食品であるよう雑菌が入らないようにすることに特に気を付けています。今は見場さえよければ」という時代で、葉っぱに虫が一つ付いていても返されてしまいます。虫でもよう食べん物を高いお金を払つて人間が食べているんです。」

生産者としての厳しい言葉は、今日の日本人や食生活への戒めでもある。

(住 所 岡崎市安戸町カミカイド四九の三)

かも息の長い発言ができた。

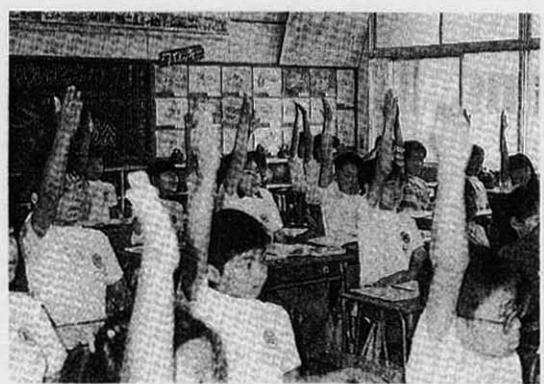
このような子供を育て、すばらしい授業が展開できたのは

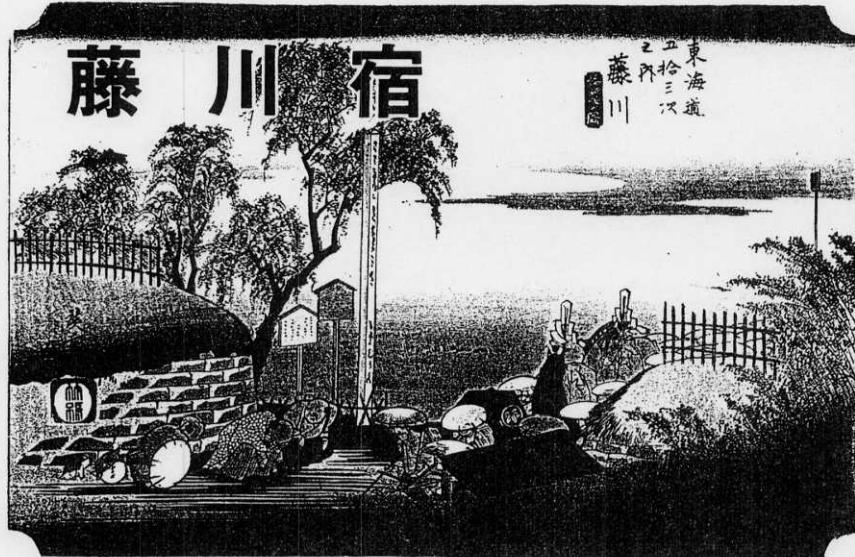
- 一人ひとりを大切にする—先生の学級経営（お互いの意見を認め合つている）

- 教材を分析する教師の目的確かさ
- 発問が組織化されている（発間に無駄がなく、時間の経過とともに読みが深まっている）

- 子供のつぶやきをうまく捉え、ゆきぶりの発問が効果的である
- など挙げられる。

工夫された発問は、子供の目を輝かせるとともに、読み取りの能力をも高めていく。





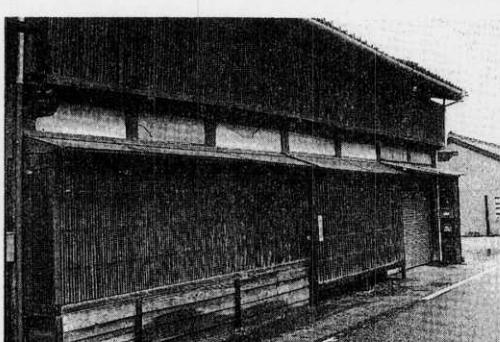
▲ 安藤広重 東海道五十三次 藤川「棒鼻図」



68



▲ 藤川の西の端付近に残る松並木



▲ 連子格子のある旅籠屋「つる屋」(斎郷家)



▲ 往時をしのばせる本陣跡の石垣

戦後の激しい変遷の中で、岡崎の町並も大きく変貌し、古の面影もいつしか近代的な様相に生まれ変わった。そうした中で、いさきかなりと名残をとどめているのが藤川である。東海道五十三次の三十七番目の宿場として栄えた藤川も、近代化への流れの中で歴史的遺産も損なわれつつあったが、最近になって、葵博を契機に再び見直されるようになってきた。地元住民の熱意によつて、この四月には、脇本陣跡に「藤川宿資料館」が完成した。

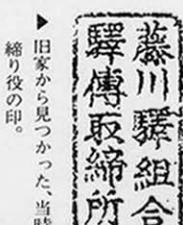
藤川宿は、隣の赤坂御油宿と比較すると小規模ながら、西は岡崎宿と吉良街道に通じ、古来から交通の要地であった。しかし、東海道本線の開通にともない、次第に宿場もさびれていったが、松並木や道標や句碑、わずかに残存する旅籠屋や商家の連子格子と静かな屋並に往時の面影をしのぶことができる。

資料館の建設に関わられた原田市郎氏からは、楽しいお話をうかがうと同時に、多くの貴重な資料を頂くことができた。



▲ 瓦師の手によって作られた狛犬。当時、この地で良質の粘土が採れ瓦職人が多くいたといわれる。

▶ 平成二年四月脇本陣跡に完成した「藤川宿資料館」会館半年で、県内はもとより、全国各地から二千人近くの来館者があつた。



▶ 旧家から見つかった、当時の宿場取締役の印。



▲ 明星院(真言集)
本尊は不動尊で、永禄5年の戦いの折、家康を救ったという伝承がある。

◀ 片目の不動尊
家康を救ったという戦の際片目を射られ、以来「片目の不動尊」と呼ばれている。現在12年に一度拝顕できる。



▲ 藤川郵便局のスタンプ



▲ 森川家の系図や、本陣における仕事が記録されている古文書。



校内水泳大会 六年男子自由形でT男がスタート台上に立つ。それを見て、「T君、T君」とクラスの大応援。彼はその期待に応え、記録十六秒五。大会新で一位となつた。

四月、学級が始まつたころの彼は、無口な性格と授業中目立たないこともあつて、友だちが少なく、女子からも敬遠されてゐる状態であつた。そんな彼が変わつていつたのが、六月中旬から始まつた水泳からである。

泳ぎ始めたころ、二十五メートルを二十四秒台で泳いでいたT男は、クラスの男子の中でも

神明村 T君



が一番速いのかということで、注目するレースだ。笛の音と共に五人がスタート。そして、十五メートルを通過した時である。T男の体が、他の四人より前に出た。みんなの目は、T男だけに注がれた。そしてゴール。「記録、十六秒七」と言つた時、「すごい」という声と、自然にわきあがつた大きな拍手。そんなまわりの様子が彼はうれしかつたのだろう。口がほころび小さなガツツボーズをした。

それからの水泳の時間は、クラス全体が変わつた。どの子も黙々と泳ぐ。水泳部でもないT

特に速い方法ではなかつた。ある日、T男が、水泳頑張りカードに、二十秒を切りたいと書いて来た。その時、「毎時間、頑張って泳げばできるよ」と、さりげなく肩をたたいて言つた。
それからというもの、T男は毎回の水泳の時間、七百から八百メートルを泳いでいた。T男の姿にまわりの男子も、「T君って、頑張つて泳ぐね」と感心していた。

男の好記録が、自分も努力をすればという気持ちを持たせたのだ。

十六秒五という記録は、自分が築き上げたすばらしい記録。そして、彼は、その記録によってクラスの中の自分を変えた。クラスの子に、頑張る大切さを教えてくれた。Ｔ君、ありがとう。これからも頑張れよ。

教育自傳

ノート点検の際、励ましの朱書きを入れた。「いいこと書いてるね。発表してみよう」と。しかし、正直言つて期待はしていなかった。答が分かれりきつている発問に答えて喜んでくれたら、と思っていた。N男は、私の期待以上の反応を示したことになる。ちょっととした朱書き、教師がさほど期待していないなかつた朱書きが、勉強嫌いの子に意見を言わせたのだろうか。

N男の拳手発言



からこそ、N男が息の長い發言をしたことにはびっくりしたのである。

本校は、「個を生かす手だてと活動の場を工夫した授業」という主題での研究会をした。社会科では、「一人ひとりの多様な考えを授業内で生かす」ことをねらっていた。したがって、様々な手立てで、個々の考え方を把握していく、一斉の場で個々の考えが持てない子については個別に支援する。N男も支援が必要だとこちらが考えていた子の一人であった。

ノート点検の際、励ましの朱書きを入れた。「いいこと書いてるね。発表してみよう」と。しかし、正直言つて期待はしていなかった。答が分かれりきつている発問に答えて喜んでくれたら、と思っていた。N男は、私の期待以上の反応を示したことになる。ちょっととした朱書き、教師がさほど期待していないなかつた朱書きが、勉強嫌いの子に意見を言わせたのだろうか。

竜南中 坂井 明

からこそ、N男が息の長い發言をしたことにはびっくりしたのである。

本校は、「個を生かす手だてと活動の場を工夫した授業」という主題での研究会をした。社会科では、「一人ひとりの多様な考えを授業内で生かす」ことをねらっていた。したがって、様々な手立てで、個々の考え方を把握していく、一斉の場で個々の考えが持てない子については、個別に支援する。N男も支援が必要だとこちらが考えていた子の一人であった。

ノート点検の際、励ましの朱書きを入れた。「いいこと書いてるね。発表してみよう」と。しかし、正直言つて期待はしていなかった。答が分かれりきつている発問に答えて喜んでくれたら、と思っていた。N男は、私の期待以上の反応を示したことになる。ちょっととした朱書き、教師がさほど期待していないなかつた朱書きが、勉強嫌いの子に意見を言わせたのだろうか。



— ら 知 お —



■ 教育委員に太田清美氏
教育委員糟谷正孝氏の任期満了に伴い、十月一日より、前葵中学校長の太田清美氏が選任された。

教育委員の皆さんは次の通り。

教育委員長 深田三太夫
委員長職務代理者 内藤美智子
教育委員 前川修
教育委員 太田清美

■ 県花いっぽい小中学コンクール、六ッ美中部小に、県新生

活動協議会賞

新生活運動協議会主催の平成二年度「県花いっぽい小学校コンクール」において、六ッ美中部小学校が県新生活運動協議会賞を受賞した。

同校では、栽培クラブと児童会の緑化委員が中心となり、交替で水や肥料を与えてきた。肥には、抜き取った雑草を腐らせて堆肥を用いてきた。

今回、同校は県新生活運動協議会賞に併せて、地域花壇賞も受賞している。

本コンクールにおける成績は次の通りである。

新生活運動協議会賞 六ッ美中部小

毎日新聞社賞 福岡小

優良賞 六ッ美北部小

地域花壇賞 六ッ美中部小

・岩津中 一年

内田理恵子

コンテスト

■ 教育委員に太田清美氏

第七回帰国子女外国语スピーチ

外務大臣賞受賞

南中二年 山田君

十月六日、東京のよみうりホールで、第七回帰国子女外国语スピーチコンテストが開かれた。

英語、フランス語、ドイツ語等七か国語一八二名の応募があり、第一次審査を通過した十六名が競った。

第二次審査を通過した十六名が競った。

第三次審査を通過した十六名が競った。

第四次審査を通過した十六名が競った。

第五次審査を通過した十六名が競った。

第六次審査を通過した十六名が競った。

第七次審査を通過した十六名が競った。

第八次審査を通過した十六名が競った。

第九次審査を通過した十六名が競った。

第十次審査を通過した十六名が競った。

第十一回審査を通過した十六名が競った。

第十二回審査を通過した十六名が競った。

第十三回審査を通過した十六名が競った。

第十四回審査を通過した十六名が競った。

第十五回審査を通過した十六名が競った。

第十六回審査を通過した十六名が競った。

第十七回審査を通過した十六名が競った。

第十八回審査を通過した十六名が競った。

第十九回審査を通過した十六名が競った。

第二十回審査を通過した十六名が競った。

第二十五回審査を通過した十六名が競った。

第二十六回審査を通過した十六名が競った。

第二十七回審査を通過した十六名が競った。

決勝が行われ、外国人教師らが内容、英語力を審査した。

山田さんは、八年間のアメリカ生活を終え帰国。不安に思つた中学校生活も、友達や先生の親切で明るく楽しいものになつたことを流暢な英語で発表し、見事県一に輝いた。

成績は次の通りである。

○中学校三年

・大竹雅也

岩津中

・内田裕子

六名小

・井川航

福岡小

・金沢文子

常磐小

・吾妻良美

小豆坂小

・吉澤裕子

六名小

・都築玲子

六名小

・鈴木裕子

六名小

・工藤力

六名小

・山本真由美

六名小

・西村香苗

六名小

・畠柳賢一

六名小

・近藤竜一

六名小

・神田静子

六名小

・合原明宏

大樹寺小

・荻野展之

常磐小

・大門小

第23回岡崎市中学校新人総合体育大会

種目	性別	優勝	2位	3位
陸上競技	男	竜海	南	矢作
	女	矢北	美川・矢作(同点で、両校2位)	
バスケットボール	男	甲山	北	城北
	女	南	城北	葵
バレーボール	男	東海	竜南	新香山
	女	南	北	東海
軟式庭球	男	常磐	新香山	竜南
	女	矢作	福岡	城北
卓球	男	北竜	南竜	海常
	女	矢北	岩津	常磐
体操	男	竜海	甲山	六ッ美
	女	北竜	竜海	北
新体操	男	六ッ美	東海	甲山
	女	六ッ美	竜海	南竜
剣道	男	六ッ美	甲山	福岡
	女	福岡	六ッ美	竜南
ハンドボール	男	城北	美川	竜南
	女	葵	六ッ美	北竜
軟式野球	男	東海	城北	葵
	女	葵	城北	東海
ソフトボール	男	北竜	新香山	竜海
	女	新香山	竜海	矢作
柔道	男	北竜	新香山	竜海
	女	北竜	北竜	附属
サッカー	男	新香山	北竜	矢作
	女	矢北	竜海	南竜
水泳	男	矢北	甲山	南竜
	女	甲山	矢北	竜海

平成二年度、岡崎市よい歯の児童・生徒の審査の結果、優秀賞は次の通りである。

○小学校六年

・中根肇

根石小

・横山和子

・桑原利枝

・河合中

・山本真由美

・西村香苗

・畠柳賢一

・近藤竜一

・神田静子

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・近藤竜一

・六名小

・神田静子

・六名小

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・近藤竜一

・六名小

・神田静子

・六名小

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・近藤竜一

・六名小

・神田静子

・六名小

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・近藤竜一

・六名小

・神田静子

・六名小

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・近藤竜一

・六名小

・神田静子

・六名小

・北竜海中

・岩津中

・合原明宏

・荻野展之

・大樹寺小

・常磐小

・大門小

・井川航

・福岡小

・金沢文子

・常磐小

・内田裕子

・六名小

・都築玲子

・六名小

・鈴木静香

・六名小

・工藤力

・六名小

・山本真由美

・六名小

・西村香苗

・六名小

・畠柳賢一

・六名小

・

・表紙写真
・カット

緑丘小
矢作中

坂田健一
鳥居是典
下登

明治以来、各小学校では、卒業時、学力優秀・操行善良・身体強健の者に「優等賞」が与えられた。賞品は、銀メダル・漢和辞典・国語辞典・硯箱など、年や町村によつて異なつた。

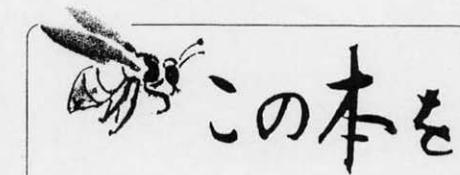
ここに紹介する辞典は、昭和十二年、木村資生先生が根石小学校を卒業された時に受賞された優等賞の賞品、博文館発行、新村出版修の「辞苑」である。

昭和初期までは、立身出世主である。



根石小学校

優等賞



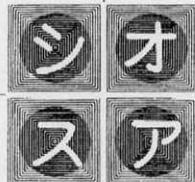
*芭蕉再発見	辻田啓志
日本放送出版協会	¥ 780
*人生の検証	秋山駿
新潮社	¥ 1300
*カッコウの子育て作戦	松田喬
あかね書房	¥ 1300
*若さに贈る	松下幸之助
講談社	¥ 540

*道教と古代日本	福永光司
人文書院	¥ 1751

従来、日本文化に道教文化の影響は殆ど無いと言うのが定説であり、そのため道教研究は片隅に追いやられていた。

著者は、そこに光を当てた先覺的学究者。天皇制や神道・仏教、それに庶民生活における道教の影響を明らかにしている。日本固有の文化が、古代日本の国際化によるものであることは、今日的に考えて意義深いものがある。

折から大嘗祭・即位礼の行われるこの月。考えを深めさせてくれる好著である。



スケッチブックを片手に、秋の紅葉を描きに行く。季節の移り変わりに目を見張りながら、野山の

あふれる話を頂いた。広重「椿鼻図」

の原点の話、片目不動尊の伝説など、その口調に郷土の歴史遺産を後世に伝え残そうとされる氏の熱き思いを感じつつ、あるか昔の町並に思いを馳せたのだった。

うまく描けなくてもいい。何も描けなくてもいい。自然の美しさに素直に感動しながら、それをゆっくりと味わう時間

を大切にしたいと思う。

美しいに心を躍らせる。

うつくしく描けなくていい。何も描け

なくていい。自然の美しさに素直に感動

しながら、それをゆっくりと味わう時間

を大切にしたいと思う。

うつくしく描けなくていい。何も描け

なくていい。自然の美しさに素直に感動</p